

安代中学校いじめ防止基本方針

1 いじめの防止等に関する基本的な考え方（本校のいじめ防止に関する基本的な姿勢）

いじめは、いじめを受けた生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものです。いじめはいじめを受けた生徒がいじめだと感じた場合、それはすべていじめです。「いじめを行った生徒が遊びのつもりだった。」は決して許されるものではありません。

本校では、すべての生徒がいじめを行わず、ほかの生徒に対して行われるいじめを認識しながら放置することが無いよう、いじめが心身に及ぼす影響その他のいじめの問題に関する生徒の理解を深めることを旨として、いじめの防止等のための対策を行います。

また、家庭や地域、関係機関との連携を大事にし、生徒が多くの人々と関わり、多くの目で見守られるよう学校を中心としたコミュニティー作りに努めます。

（いじめの禁止）

本校生徒は、いじめを行ってははいけません。また、周りの生徒がいじめられている状況を見すごしません。

（学校及び職員の責務）

いじめが行われず、すべての生徒が安心して学習やその他の活動に取り組むことができるように、保護者、地域住民他関係者との連携を図りながら、学校全体でいじめの防止と早期発見に取り組むとともに、いじめが疑われる場合には、最優先課題として適切かつ迅速にこれに対処し、再発防止に努めます。

2 いじめの防止等に関する内容

（1）いじめの未然防止のための取組み

- ・ 生徒の豊かな情操と道徳心を培い、心の通うコミュニケーション能力の素地を養うため、すべての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動等の充実を図ります。
- ・ 生徒が自主的に行ういじめ防止に資する活動に対する支援を行いまた生徒会活動に具体的に盛り込みます。
- ・ 交流活動や行事、ボランティア活動等を通して保護者並びに地域住民その他の関係者との連携を深め、地域で生徒を見守る体制づくりに努めます。
- ・ いじめは決して許されないという共通認識に立ち、全職員がいじめの態様や特質等について学期一回の校内研修や定例の職員会議を通して共通理解を図り、組織的に対応します。
- ・ 生徒の少しの変化も見逃さず、見守っていくために、校務の効率化をはかり、生徒とかかわる時間を多くするように努めます。また、業間や放課後の校内巡視を計画します。

（2）いじめの早期発見のための取組み

- ・ いじめを早期に発見するため、在籍する生徒に対する定期的な調査を次のとおり実施します。
 - ア 生徒と保護者対象のいじめ・悩みアンケート調査 各年3回（6月、10月、2月）
 - イ 個別面談、教育相談を通じた学級担任による生徒からの聴き取り調査年3回（7月、10月、11月）
- ・ 生徒及び保護者がいじめに係る相談が行うことができるよう次のとおり、相談体制の整備を行います。
 - ア 管理職、スクールカウンセラー、養護教諭による教育相談
 - イ いじめ相談窓口の設置（教育相談）
 - ウ 学校評価アンケート年2回実施（保護者・生徒・地域）と各学期1回のいじめに関する校内研修実施
 - エ PTA役員、民生委員、児童委員、人権擁護員、地区の班長及び有識者から意見を聞く場を設定する。
- ・ 相談、通報のあった事案は、「いじめ対策等検討会議」を通して情報共有に努めます。

（3）いじめの早期解決のための取組み

- ・ いじめを見た、またはその疑いがある行為を見た場合は、すぐにいじめをやめさせます。

- ・ いじめに係る相談を受けた場合は、すみやかに事実の有無の確認をします。
- ・ いじめの事実が確認された場合は、いじめをやめさせ、その再発を防止するため、いじめを受けた生徒、保護者に対する支援と、いじめを行った生徒への指導とその保護者への助言を継続的に行います。
- ・ いじめを見ていた生徒等にも自分の問題として捉えさせ、誰かに知らせる勇気を持つよう指導します。
- ・ はやしたてたり、同調している生徒に対しては、それらの行為がいじめに加担する行為であることを理解させるよう指導します。
- ・ いじめの当事者間における争いを生じさせないよう、いじめの事案に係る情報を関係保護者と共有するために必要な措置を講じます。

(4) インターネット、LINE 上のいじめへの対応

発信された情報が急速に広がってしまうこと、発信者の匿名性、その他のインターネットを通じて発信される情報の特性をふまえて、インターネットを通じて行われるいじめを防止し、生徒及び保護者が効果的に対処できるように、情報モラル研修会等必要な啓発活動を行うと共に、全校集会等での注意喚起を行います。

3 「いじめ対策等検討会議」の設置

いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処等に関する措置を実効的に行うため、「いじめ対策等検討会議」を設置し、学期に1回程度開催します。いじめと疑われる相談・通報があった場合には、会議を緊急開催します。

(1) 「いじめ対策等検討会議」の構成

管理職をはじめ全教職員で構成

(2) 活動内容

- ・ いじめ防止等の取組内容の検討、基本方針、年間計画作成、実行、検証、修正
- ・ いじめに関する相談、通報への対応、いじめの判断と情報収集
- ・ いじめ事案への対応検討、決定、いじめ事案の報告

4 重大事態への対処

いじめにより、生徒の生命・心身又は財産に重大な被害が生じた場合や、相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている等の疑いがある場合は、八幡平市教育委員会に報告し、協議の上、「いじめ緊急調査委員会」を設置し、迅速に調査に着手します。

(1) 「いじめ緊急調査委員会」の構成

- ・ 管理職、教務主任、生徒指導主事、教育相談担当、該当学年

(2) 活動内容

- ・ 発生した重大事態のいじめ事案に関する調査と確認
- ・ 調査によって明らかになった事実関係について、いじめを受けた生徒及びそれに係わった保護者に対して、適時適切な方法での提供、説明
- ・ いじめ解消の確認のために3ヶ月間の継続観察
- ・ 八幡平市教育委員会への調査結果報告
- ・ 調査結果の説明について、いじめを受けた生徒又はその保護者が希望する場合は、所見をまとめた文書を添えて、調査結果の報告を提出